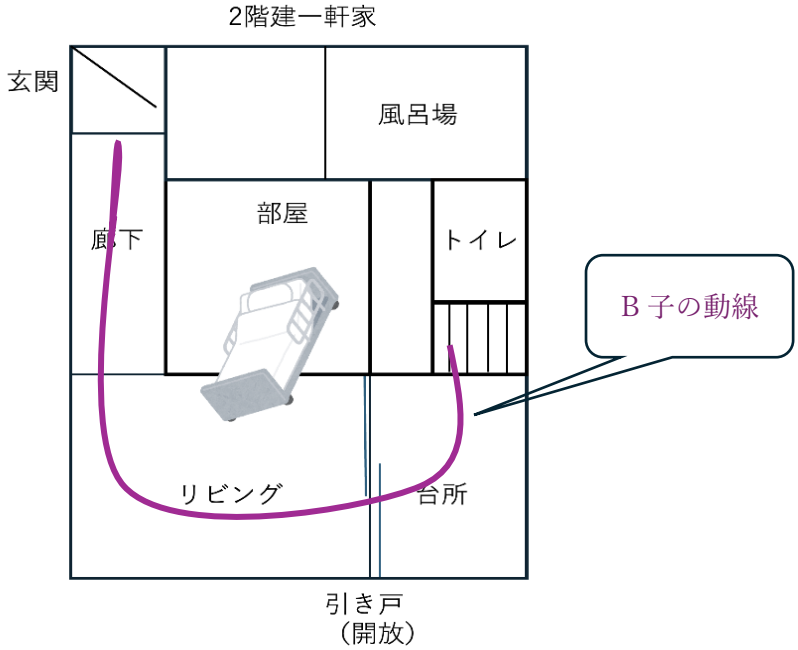
事例：肝臓癌末期の夫と家族の意思決定支援

A さん背景
40 代女性　夫婦共に教員　新築一軒家にて小学 4 年生の娘（B 子）と 3 人暮らし
　　夫が肝臓癌末期となり余命わずかと言われ，1 ヶ月前から介護休業中

経過：夫は肝臓癌末期と宣告され，緩和ケア病棟に入院していたが，
家で死にたいと望み，A さんもその希望を叶えてやりたいと娘とも相談し自宅で看取るため，介護休業を申請して訪問看護でペインコントロールと点滴を行うことになった．
（訪問看護は毎日訪問でオピオイドの貼り替えと点滴，適宜摘便を行なっていた）

この時，A さんは娘に，父親が癌末期と伝えずに，
「パパが家に帰ってきたいんだって．B 子ちゃんと会えないのが寂しいんだって，
パパの病気をママと看病しようね」と伝えていた．

夫の希望でリビングと次の部屋を開放し，真ん中にベッドを置いて，家族の動きがいつでも見られるようにした



自宅退院後，両親や身内のお見舞いが続いていた．
1 週間を過ぎたころ一気に状態（顔色土気色，るいそう，腹水著明）
がさらに悪化した．

同時に B 子が，
「パパが怖い，パパじゃない．（ここで）パパが死んだら，この家に住みたくない」
と泣いて訴えるようになった

A さんは，夫の希望を叶えてやりたい気持ちと B 子の気持ちの板挟みになり，
訪問看護師にどうしたらいいのかと相談があった．